

# 書 燈



アレナ・ペルナンブーコ・スタジアム（レシフェ）にて

## 「神戸賀川サッカー文庫」を開設して 賀川 浩

「神戸賀川サッカー文庫」がスタートして3か月が過ぎました。オープンは火・木・土の週3日、それも午後1時半から5時まで、閲覧は自由だが貸出しは出来ない——図書館機能としてはまだまだ不十分ながら、足を運んで下さる方もあり、書架の図書を眺め、古いサッカーマガジンのページをめくる来場者をみるとこちらもうれしくなる日々です。なかには私に会うのが目的の方もあって、サッカー談議にあつという間に閉館時間がきてしまうこともあります。

1924年神戸生まれの私は、雲中小学校の4年生のころからサッカーに親しみ、神戸一中（現：神戸高校）、神戸商大予科（現：神戸大学）で夢中になり、兵役（陸軍航空）で中断したあとも大戦後は再びボールを蹴り、やがてスポーツ記者となり今日までスポーツを取材してレポートを書くという仕事を60余年、現在まで続けてきました。ことしのFIFAワールドカップ・ブラジル大会にも短期間ながら取材に出かけ、サッカー王国ブラジルでの大会で10回目となる大会の楽しさを満喫しました。大会中にFIFAの公式サイトが「この大会の取材に集まったメディアの最年長者」として、「An old master's long journey」という見出しで私のインタビュー記事を掲載したので、すでにお読みの方も多いことでしょう。

この図書館内での賀川サッカー文庫は「資料に囲まれ、仲間とサッカーを語り合う場所を持ちたい」という私の年来のユメが、神戸市立中央図書館の賛同を得てかなったものです。三木真人館長、松永憲明課長はじめ図書館の皆さん、市教育委員会の盡力がなければかなわなかったことです。また神戸市サッ

カー協会、兵庫県サッカー協会、大阪府サッカー協会、関西サッカー協会のバックアップのおかげでもあります。年来の仕事仲間でこんどのブラジルゆきにもつき合ってもらった本多克己さん（シックス社長）をはじめ、サロン2002のメンバーのご助力には心からお礼を申し上げます。また2か月にわたって目録作業にあたった灘高サッカー部OB会の木下岩男・芳己夫妻、佐藤純一、近藤博明さん、私の母校の神戸大学、神戸高校サッカー部OB会の青山隆、有村淳、飛岡博明、田中征五、渋谷博、長木義明の皆さんには、文庫開設後も引きつづいて資料整理にあたって頂くことになりお礼の申しようもないことです。

関西でサッカーの文庫といえば、故田辺五兵衛さん収集の田辺文庫が有名です。JFAの副会長であり、私の大先輩でもあった田辺さんのコレクションには、独自の貴重なものもありますが、この賀川文庫にも、世界におそらく一冊だけといったものもあり、また、英国のサッカー専門誌ワールドサッカー（月刊）が1970年から40余年分そろっています。その田辺文庫との提携や、多くのサッカー仲間の所蔵図書については今後のことになるでしょう。

サッカーはルールも簡単で、それ故に世界中で最も愛され、最も多くの人を楽しむスポーツですが、スポーツは“する”楽しみから“観る”“語る”“読む”といった多彩な面白さ、楽しさがあります。こんどのワールドカップでは世界中がテレビを通してこの競技を楽しみましたが、この文庫に足を運んでいただくことで、このスポーツをより広く、より深く味わって頂くことになると思っています。

## 「神戸賀川サッカー文庫」の開設について

松永 憲明

### 1. はじめに

中央図書館では、賀川浩氏（神戸市出身、元サンケイスポーツ編集局長）が所蔵するサッカー関連図書及び雑誌など（約 5,000 点）を受託し、「神戸賀川サッカー文庫」を開設した。ここに文庫開設に至る経緯、資料内容や運営状況等についてまとめておきたい。

### 2. 開設の経緯

平成 23 年 10 月に、賀川氏から（一社）神戸市サッカー協会を通して、神戸市に所蔵するサッカー関連資料展示場所提供の要請があった。教育委員会でいくつかの施設の使用を検討したが、様々な課題があることから適切な場所が決まらなかった。

平成 25 年度になり、他都市からも資料受入れの意向が示されたこともあり、スポーツ体育課からの打診を受けて中央図書館内部で検討した結果、「特別コレクション」のひとつとして受入れる方針を固め、賀川氏側と協議を開始した。

開設場所は、中央図書館 1 号館 2 階の「図書館資料室」とし、受入れ時期については、耐震化工事が予定されていたため、工事終了後の平成 26 年春とした。これに伴って、「図書館資料室」に保管されていた神戸ポートアイランド博覧会関係資料は産業振興局に移管した。

### 3. 賀川氏と所蔵サッカー関連資料について

賀川氏は、大正 13（1924）年に神戸市で生まれ、神戸一中（現：神戸高校）、神戸経済大（現：神戸大学）、大阪クラブでサッカー選手として活躍し、東西学生選抜対抗出場、全日本選手権準優勝などの経験を持つ。昭和 27（1952）年から産経新聞運動部記者、昭和 50（1975）年にはサンケイスポーツ編集局長に就任、現在ではフリーで現役最年長のサッカージャーナリストである。平成 22 年には長年の執筆活動や、東京オリンピック 5、6 位決定戦開催、神戸 FC 創設等に関してサッカー興隆のため尽力したことにより、日本サッカー殿堂入りを果たした。

所蔵するサッカー関連資料は、賀川氏が原稿を書くため、サッカーを考えるための資料が積み重なったもので、ワールドカップやヨーロッパ選手権、その他海外・国内の取材の時に求められた図書や、ご自身が読みたいと思い収集された図書である。また、『サッカーマガジン』、『サッカーダイジェスト』、『イレブン』の雑誌バックナンバーが揃っている等、サッカーファンにとっては魅力的なコレクションである。

寄託契約書に記載された資料は 3,430 冊（うち雑誌 1,789 冊）で、受託が決まる前から賀川氏の関係者により秩父宮記念スポーツ図書館の分類を参考に整理されており、未整理の図書（約 1,500 冊）についても関係者が開室日に来館し、運営ボランティアとして分類・整理作業に協力してくださっている。また、賀川氏自身の Web サイトである「賀川サッカーライブラリー」では、整理済み資料の書名、著者名、キーワードでの資料検索が可能となっている。

### 4. 開設セレモニー、講演会の開催等について

開設当日の 4 月 20 日に、関係者による開設セレモニーを行った。関西、大阪府、兵庫県、神戸市、芦屋市の各サッカー協会と、神戸 FC、(株)ウィングスタジアムの代表者が出席され、また、日本、関西、大阪府の各サッカー協会とヴィッセル神戸からお祝いの花が贈られるなど、改めて賀川氏の人望とサッカー界での功績が感じられるものとなった。

今年、FIFA ワールドカップの開催年にあたることから、サッカーへの関心が高まっており、セレモニーに続いて開催した、賀川氏を講演者とした「開設記念講演会 “神戸とサッカー、そして本”」には 90 名を超える参加があった。



開設記念講演会

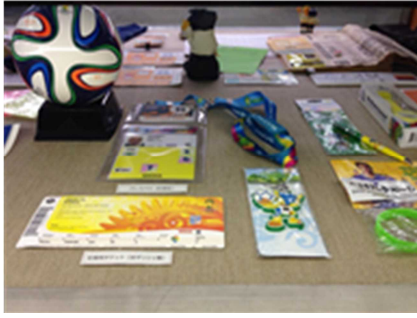
開設セレモニーや「開設記念講演会」の様子は、テレビニュースや新聞等で取り上げられた。

引き続き、5 月 31 日には賀川氏に講演をお願いし「ワールドカップ講演会」を行った。「ワールドカップ講演会」は、賀川氏にとって 10 回目となるワールドカップのブラジル大会の取材へ向かう直前に開催したもので、ご自身の 9 回の取材を通して感じたワールドカップの魅力や大会運営の裏側、ブラジル大会の注目選手、日本代表への期待等をお話しいただいたものである。その後も賀川氏はワールドカップの開催に関連して、民放ラジオ番組など多くのメディアの取材を中央図書館内で受けている。

また、ワールドカップ開催期間中には中央図書館 1 階で、“賀川浩ワールドカップの旅”として、賀川氏がこれまでのワールドカップ取材で手にしたプレスパス（記者証）、記者用チケットや大会記念品をガラスケースで展示したところ、身を乗出し覗き込む

市民も多く見られた。

今回のワールドカップでは、日本代表は残念な結果となったが、賀川氏の帰



“賀川浩ワールドカップの旅” 展示

国後はブラジル大会プレスパス等の記念品の追加展示を行った。

### 5. サッカー文庫の運営状況

「神戸賀川サッカー文庫」は、関係者が運営ボランティアとして来館される毎週火・木・土曜の午後1時30分から5時に開室し、賀川氏も他用のない限り開室時間に合わせて来館されている。

賀川氏の「図書・資料に囲まれて仲間とサッカーを語り合うルームを持ちたい」というご希望に沿うため、室内では自由に会話をしていただけるような配慮を行った。開室日には幅広い年齢層の方が来館され、資料の閲覧より賀川氏との“サッカー談議”を楽しみに来館される方もおられる。また、運営ボランティアの方が用意してくださったサイン帳にも多くのメッセージが残されている。

開設後約3か月を経過し、「神戸賀川サッカー文庫」は賀川氏の望んだサッカー関連の図書や雑誌に囲まれて人と人がつながる場となりつつある。中央図書館内にありながら、ドアを開けて部屋に入ると別世界なのである。今後はこのサロンのような雰囲気を大事にしながらも、図書や雑誌の配架場所の見直しや必要に応じて書架の増設、東京にあるサッカーミュージアムのレファレンスルームとの情報交換等により、サッカーの調査・研究する目的の来館者にも役立つコレクションとしていきたい。

### 6. まとめ

神戸はサッカーの試合が初めて行われたとされる日本サッカー発祥地のひとつであり、明治期から神戸一中や御影師範等の学校でサッカーが盛んに行われていたことにより技術レベルも高く、多くの優秀な選手を輩出している。また、平成14年のワールドカップ日韓大会では試合が行われ、男女サッカー、フットサルのプロフットボールクラブが市内に3つも存在するサッカーの街である。

このたびの賀川氏が所蔵するサッカー関連資料の受託により、“サッカーの街神戸”にある図書館として、賀川氏やサッカー文庫に関わる方々の協力を得て情報発信ができればと考える。

### 図書館と地元サッカークラブとの連携

前回のワールドカップ（南アフリカ大会）開催年（平成22年）が国民読書年にあたることから、図書館海援隊に参加する有志の図書館で地元Jリーグクラブとの連携が開始された。「図書館からスタジアムへ、スタジアムから図書館へ！」というキャッチコピーによる全国キャンペーンが実施され、特別展示の開催や常設コーナーの設置、選手・マスコットの図書館行事への参加、対戦相手の地元図書館との交換展示等の多くのイベントが実施され、文部科学省のホームページでも紹介された。

神戸市立図書館もキャンペーンに参加し、ヴィッセル神戸の協力を得て「がんばれヴィッセル神戸！」という応援展示を行ったが、危ぶまれたJ1残留が展示開始直後に決まったことから大いに盛り上がった。



「がんばれヴィッセル神戸！」応援展示

その後も対戦相手の地元図書館との交換展示を行ってきたが、J2に降格した昨年は、ホームタウンに有名な温泉のあるJ2クラブの地元図書館同士で行う“バトルオブスパ2013”（交換展示&温泉ダービー）に参戦して優勝した。



「神戸賀川サッカー文庫」書架

（利用サービス課長）

## 一歯と口の健康 展示一

歯と口の健康週間に「お口の中は元気ですか？歯の健康で“歯（ハ）ッピー！”展（5月27日～6月8日）を開催した。保健福祉局からは、歯の健康や検診の啓発ポスターやチラシ、図書を提供していただいた。展示図書は約120冊、専門的な資料から絵本、紙芝居まで幅広く収集した。

来館者の健康への関心は高く、チラシを手に取る年配の方や絵本を見る家族連れなど、多くの方々に足を止めていただいた。（調査相談係長・大黒）

## 一WebOPACの改修一

6月4日（水）に画面デザインや検索ロジックを改修したWebOPACをリリースした。

今回の改修では、スマートフォンなど携帯端末で利用しやすい画面構成に変更し、タブにより検索対象の図書館カテゴリを選択できるようにした。検索語入力欄もフリーワード欄をメインとし、検索方法も、前方一致から中間一致に変更した。これにより、従来より直感的な検索が可能になった。

（企画情報係・益田）

## 一三宮図書館 IC タグ対応自動貸出機導入一

6月10日（火）から三宮図書館で自動貸出機サービスを開始した。利用者用自動貸出機（2台）を設置し併せて業務用端末（5台）にICタグ処理用アンテナを導入した。6月末まで（18日間）の利用は、貸出者14,242人のうち463人（3.3%）が、貸出冊数34,461冊のうち1,133冊（3.3%）が自動貸出機による利用であった。（企画情報係・堀口）

## 一ぬいぐるみおとまり会一

平成25年度に引き続き、5月10日（土）に、中央図書館とこべっこランドとの共催で実施した。子供9人と、くまからイカまで多様なぬいぐるみが9体。一緒にお話会と工作会を楽しんだあと、ぬいぐるみを寝かしつけ、持ち主は帰る。その夜、ぬいぐるみたちはこっそりこべっこランドと図書館の書庫を探検する。11日（日）のお迎え時には一体ごとに写真をまとめたアルバムのおみやげと、ぬいぐるみが持ち主のために探した絵本を借りて帰っていただいた。（利用サービス課担当係長・鎌田）

## 一箕谷小学校市民図書室における

### 「予約図書受取コーナー」サービスの開始一

昨年度から3か年計画で進めている「予約図書受取コーナー」の3か所めとして箕谷小学校市民図書室でのサービスを開始した。開始当日の6月24日（火）には、図書館カードの申込みが6件あるなど、好調なスタートを切った。（総務課担当係長・榊井）

## 一Facebookによる情報発信一

中央図書館でも、小まめな情報発信と市民等との双方向コミュニケーションを図るため、6月からFacebookページを開設した。好評で多くの方が閲覧し、ページへの“いいね！”の数も順調に増え、内訳は男性が44%、女性が55%である。

（利用サービス課長・松永）

## 一ブックリストの作成一

昨年まで資料の探し方・調べ方案内のパスファインダーを作成していたが、平成25年度はテーマ別ブックリストの作成に変更した。一般編のテーマは、「移民」「白書」「日本の古典」「江戸時代の旅」「オリンピック・パラリンピック」の5種。郷土編は、「神戸建築探偵団」「水族館・動物園」「発掘報告」「映画の始まりと神戸」「ふるさとの古城」「阪神大洪水」「歴代の市長」「兵庫のやきもの」の8種。計13種のリストの配布を行っている。

（調査相談係長・大黒）

## 一平成25年度 1階・2階常設展示一

ちょうど100年前の1913（大正2）年、神戸の新開地に聚楽館がオープンしたことから、平成25年度の年間展示テーマを「エンターテイメント」とし、展示を行った。各回のタイトルは「映画の始まりと神戸」「チャップリン来神」（6月～8月）、「『風俗画報』にみる明治時代 日本の博覧会」「神戸の博覧会」（9月～11月）、「遊園地今昔物語」「神戸の遊園地」（3月～5月）。12月～2月は耐震化工事中のため展示はできなかった。（調査相談係長・大黒）

## 一地域館トピックス一

北図書館では、「第23回全国地芝居サミット in 神戸」の開催にあわせ、北区まちづくり推進課と連携して資料展示「農村歌舞伎&北区の春を楽しもう」を実施した。

灘図書館が「YAスポット」を設置。夏休み期間を除く火曜から金曜まで午後6時以降は児童調べ学習コーナーの8席を中高生向けの自習スペース「YAスポット」としてご利用いただけることになった。

三宮図書館では、東灘図書館に続き、6月10日（火）から自動貸出機をご利用いただけるようになった。（総務課担当係長・幣）

## 一手帳一

### 人事

#### 3.31 退職

楠 隆三（利用サービス課市民サービス係）

梶村 勝也（利用サービス課市民サービス係）

#### 4. 1 人事異動

幣 正夫（総務課担当係長）

鎌田 寛子（利用サービス課担当係長）

村井 博之（利用サービス課市民サービス係長）

福永 直子（利用サービス課資料係長）

#### 会議 3.19 安全衛生委員会

3.28 図書館協議会

5.23 兵庫県図書館協会理事会

6. 6 兵庫県図書館協会総会

6. 6 図書館協議会小委員会

#### 研修 6.19 館内研修

#### 行事 4.19 子どもの読書週間講演会

#### その他 5.27 図書情報配信開始（E-mailユーザー宛）

6.18 ラジオ関西取材（6.25 放送）

7.15 館外返却ポスト（3ヶ所）運用開始